

<p>29日 (日)</p> <p>マラキ 1章</p>	<p>「わたしはあなたたちを愛してきたと主は言われる」(2節)。主の怒りを受けた民に対する主からの救いのメッセージ。主は形だけの礼拝でなく、「主はイスラエルの境を越えて大いなる方である」と心から悔い改め、賛美する群れを待っておられる。主の日、イスラエルへの招きを、共にいただきましょう。</p>
<p>30日 (月)</p> <p>マラキ 2章</p>	<p>「レビと結んだわが契約は命と平和のためであり、わたしはそれらを彼に与えた。それは畏れをもたらず契約であり、彼はわたしを畏れ、わが名のゆえにおののいた」(5節)。主の契約の本質を民が見失う時、民の言葉は主を疲れさせる。神を賛美するたびごとに、主の契約が命と平和のためであることを心に留めたい。</p>
<p>31日 (火)</p> <p>マラキ 3章</p>	<p>「あなたたちは先祖の時代から、わたしの掟を離れ、それを守らなかった。立ち帰れ、わたしに。そうすれば、わたしもあなたたちに立ち帰ると万軍の主は言われる」(7節)。主の裁きは突如、起こる。裁きは、イスラエルが精錬され、清められ、献げ物を正しくささげる者と立ち帰るためである。喜びの使者を待ち望みたい。</p>
<p>8月1日 (水)</p> <p>マタイ 1章</p>	<p>「このすべてのことが起こったのは預言者を通して言われたことが実現するためであった」(22節)。インマヌエル(神、我らと共に)の主の誕生は、アブラハムの時代から約束されてきた。マラキに語られた約束の契約が、今イエスをといて示される。主の義さがこの地にあらわされる喜びの知らせを共に味わいます。</p>

<p>2日 (木)</p> <p>マタイ 2章</p>	<p>「ガリラヤ地方に引きこもり、ナザレという町に行って住んだ『彼はナザレの人と呼ばれる』と、預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった」(23節)。</p> <p>イエスの誕生を祝ったのは、異邦人の学者たち。学者たちは喜び、エルサレムの人々は不安を抱いた。救い主の働きは、“引きこもった” 場所から始まった。</p>
<p>3日 (金)</p> <p>マタイ 3章</p>	<p>「今は止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」(15節)。荒れ野で、ヨハネは水のバプテスマを受け、「聖霊と水でバプテスマを授ける方が来る」と語る。命と平和の約束が「わたしの愛する子」を通して、示される。イエスは荒れ野ではなく、わたしたちのただ中に来られる。</p>
<p>4日 (土)</p> <p>マタイ 4章</p>	<p>「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」(10節)」。ガリラヤへ逃げるイエスの消極的とも思える行動が、暗闇にすむ民に大きな光となり、福音が宣べ伝えられる。「悔い改めよ、天の国が近づいた」。イエスとヨハネの声が響く。その声に応答し、弟子たちが立てられていく物語にわたしも加えられたい。</p>
<p>5日 (日)</p> <p>マタイ 5章</p>	<p>「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである」(3節)。主イエスは「幸い宣言」をもって宣教活動を始める。この宣言は「格言」ではない。主イエスが「誰と共に生き、天の国の幸いを分かち合おうとしているか」を示した、覚悟の言葉である。今日、共に歩まれる主の励ましを聴いていきたい。</p>